

## 令和5年度第3回香美市保育園運営委員会 会議録

○日時 令和6年1月22日（月）13：30～14：20

○場所 香美市役所5階503会議室

○出席委員

宮地委員、信崎委員、竹内委員、近藤委員、植村委員、森田委員、中島委員、原委員、  
笹岡委員、武内委員、公文委員、黒原委員

○欠席委員

島谷委員、公文委員、堀内委員

○事務局

中山次長、一圓課長、小松班長

○傍聴者

1名

《開会》

（一圓課長）

ただ今から「第3回香美市保育園運営委員会」を開催したいと思います。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして有難うございます。

はじめに、会議の開催にあたりまして、中山教育次長より、ご挨拶を申し上げます。

よろしく願いいたします。

（中山教育次長）

教育次長の中山です。委員の皆様方には、日頃から本市の保育運営に一方ならぬご支援を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。

また、本日はご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜りまして、有難うございます。本来であれば、教育長からご挨拶を申し上げるところでございますけれども、本日所用により、欠席をさせていただいております。

本日は皆様方からの貴重なご意見を、よろしく願い申し上げます。

（一圓課長）

それでは、本日の会議は、お配りしました「第2回香美市保育園運営委員会次第」に基づき進めさせていただきます。まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

（小松班長）

幼保支援班長の小松です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。本日の資料のご確認をお願いしたいと思います。

（資料の確認）

資料に不足等はございませんでしょうか。資料は揃っておいでですので、よろしく願いします。

(一圓課長)

次に会議の成立についてご報告させていただきます。本日は、全委員15名中、現在11名のご出席をいただいておりますので、委員の過半数の出席がありますので、会議成立の定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。なお、本日、公文委員様はご都合により欠席となっておりますのでよろしくお願いいたします。また、本日は1名の方の傍聴の希望がございましたので、ご了承を賜りますようお願いいたします。

それでは、ここからは議事に入りますので委員長に進行をお願いしたいと思っております。宮地委員長よろしくお願いいたします。

(宮地委員長)

皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しいなか、お集りいただきまして、有難うございます。本日は本年度第3回という事で、本年度のまとめをしたいと思っております。その後で事務局より、保護者会連合会から保育行政への意見について、説明していただくという事で、この2つを本日の議題としていきたいと思っております。

それでは、前回、私の方でとりまとめをさせていただきました、認知能力と非認知能力の話と、保育行事、保育行事でない普通の保育の中でどういう保育、就学前教育をしていくのかと、そういった充実した保育のためには、小学校との接続を意識して、いく必要がある、すなわち、アプローチカリキュラムというものが必要ではないかと、この大体3つぐらいにまとめられるのではないかと思います。本年度のとりまとめとしては、大体そういう観点で少しご意見をいただいて、まとめたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、その3つですが、全部関連しておりますので、1つ1つ取り上げて議論をしていくのではなく、保育の充実のためには、かくあるべきという議論から進めていってもらえたらと思っております。ご意見をよろしくお願い申し上げます。

前回皆様方に発言をさせていただきましたが、まだ発言の足りない方とか、前回言い抜かっていたという方がおいででしたら、是非、お願いします。

(原委員)

なかよし保育園の原です。子どもたちの非認知能力という点で、コロナ禍も過ぎましたので、コロナ禍でやめていた行事を取り戻している段階ですが、今まで上の子をみて育てていたところ、コロナでクラスごとの保育になってしまった部分で、お兄さん、お姉さんの姿をみるのが、3歳児、2歳児にとって少なくなってきたため、これからは交流をすすめて、そういう部分を増やして、意識づけをしていけたらと思っております。

(宮地委員長)

非認知能力のお話が出てまいりましたが、ここは最近そういう研究が大変進んできておりまして、認知能力も大事ですが、非認知能力もすごく大事であるという事で、

特に保育園、幼稚園の段階では、非認知能力を説明していく必要が言われています。今の原園長先生の、関連でも結構ですが、何かご意見はありませんでしょうか。

(公文委員)

美良布保育園の公文です。行事だけでなく、日常の保育で、わくわくするような経験というか、そういうのが大事ではないかと思います。

先月の12月に寒い日があって、プールの水が凍っていて、子どもたちもすごく喜んで、明日も凍るかも知れないという事で、カップにお水をためて置こうとか、これはどうして凍ったのかとか、自分なりに考えてみたり、試してみたり、そういう経験がすべて行事とか保育とかではなくて、日常生活で経験する中で、やってみようとか、楽しいのでやってみようとか、そういう事が大事ではないかと思います。

わくわくするとか、ためしてみるとかが、一番大事だと思います。保育の間に色々な事を経験する事が大事だと思います。

(宮地委員長)

有難うございました。やはり、日常の保育の中でわくわくするような経験、元気がないと表面的に見えても、実はそうではない、内面的なもの、情緒を育てるとか、そういった部分がこれから大事なのではないかと思います。誰かをみて、元気があるとかないとかは、誰でもわかると思うのですが、それよりも心の内面的なものがどういうふうに成長しているのか、すごく大切な部分ではないかと思います。そういった事についても、是非、ご発言をいただけたらと思います。

(竹内委員)

非認知能力にしても、認知能力にしても、子どもが自分自身で興味を持つ事が大事です。環境は整備するけれど、自分から(興味を持って)いくという事が大事です。

それは頭の中でだけではだめなので、身体性を伴った興味の引き出し方がすごく大事で、特に、幼児は体を動かし、身体性を高めていくことで、一緒に知能・脳の発達があるわけです。「身体性を伴った」というところが大事です。コロナでご家庭によっては引きこもりがちになったところが増えておりますし、もともと親が運動が苦手なご家庭だと特にその傾向が強くなっていて、(子どもの間で)だいぶ格差が広がっている感じがしますので、そういったところは園で補っていくしかないと思います。(香美市は)自然が豊かなところなので、たぶん(体を使って)遊んではいるのかと思います。知らない人がみると、ただ自然の中で「わあっ」と遊んでいるように見えるけれども、子どもが色々なものを発見して、好きなように遊んでいるというのが大事です。そこは大切にさせていただいていると思います。

(宮地委員長)

有難うございました。小学校も今、認知能力、非認知能力とかに焦点をあてて、取り組んでおられますが、小学校の立場からどうでしょうか。

(森田委員)

大宮小学校の方は、香北地区でIB教育に取り組んでいます。目指す学習者像として、10の学習者像を決めて、取り組んでいて、そういう子どもになってほしいという姿を、教員がたえず言葉にしなが、子ども達を育てていく、そういう姿がみえてきたときに価値付けをしていくという事がすごく大事だと、思っています。この間、小学校へ保育園の方から大谷選手のグローブを見に来てくれました。たくさん話したい事があって、自分の言葉を表現してくれる、子ども達、普段接する事が少ないですが、コミュニケーション能力、私達IBの視点で見ますが、そういった力はすごくあると感じた事でした。それを周りの大人が価値付けをしてあげるという事を保育園から小、中と、同じ視点でしてあげるという事が、非認知能力をつけるには大事な事であると感じました。

(宮地委員長)

大谷翔平のグローブは皆さん届きましたか。

喜んだでしょう。

(森田委員)

大変喜びました。

(宮地委員長)

全国でグローブが届きましたという話を聞きますが、香美市でも届いていることがわかりました。山田小学校はいかがでしょう。

(植村委員)

教育的な視点からいうと、私達小学校の反省ですが、保幼小の連携というのは、幼児教育を基盤としたものに、小学校から基本と学びが積みあがっていく構造だと思います。この点を捉え切れていない我々がいるということも事実です。小学校からスタートであると思っているところがあります。しかし、園長先生がお話された子どもたちの様子、興味を持ったり、面白さを感じたりとか、何かに集中したり、根気強く取り組んだりとか、様々な遊びの中で、生活の中で、培われたものが、そのまま学びの芽生えとして、小学校の方でも引き継がれていないと、なかなか今の小学校教育、学習を中心とした中で、非認知能力を一から築きあげていくのは困難で、話がずれるかもしれませんが、そこに保幼小の連携の重要さがあるって、そこで保育園とは方針とか環境とか違うのですが、良くお話を聞きながら、保育観とか教育観等について、交流しながら、自分達の姿というものを、しっかりと受け入れてそれを学びへ繋げていく事をしないと、この非認知能力、認知能力もそうですが、難しいと実感しております。

大事な幼児教育で、制限があるなかでも、交流をしていく、共に研修の機会をやっていく必要があると思います。小学校でいえば、教育課程の中身にまで入っていく事になりますので、是非、よろしくをお願いします。

(宮地委員長)

有難うございました。植村校長先生は前回、接続のところのスタートカリキュラムを中心にお話をいただいたんですが、それと非常に関連をしているお話でした。

香美市の保育・教育については、少なくとも15歳、中学校卒業までは責任がありますので、その子どもたちの成長の過程で、一番大事な保育の時期、ベースになるここを私たちは大切にしたいと考えています。植村校長先生、森田校長先生からもお話がありましたが、保育の成長の土台の上に小学校教育が成り立ちますので、その接続というのは非常に大事になると思います。

私事ですが、孫が2人おり、7歳と5歳ですが、下の子が今一生懸命文字を覚えようとしています。大変興味があって、年中になってから特に興味がわいていて、子どもの発達段階でそのような年齢なのかと感じています。徹底して遊ばせ、自由に遊ばせています。保育のなかで、1対1ではできませんが、集団のなかで、子どもの遊びの中で、そういった事がうまく培えればと思います。孫を通して、保育をこのように考えています。

(笹岡委員)

さきほどの字に興味をもってというお話で、5歳児が園長先生のところへ「紙ちょうだい紙ちょうだい」と、「白い紙をちょうだい」と、いつも言いに来るのですが、それを園長先生が本にして渡します。すると、絵本を作るとか、この前は会う職員、職員に干支を開いて回っていました。「何とか先生は何歳」、「へびやねえ」とか、それを書いていました。また、この間、女の子が「平和って何」という本を作っていて、「平和ってお友達が手を繋いでいる、上から見たらこんなだよ」と、ハートマークを書いていました。そういう姿をみて、年長さんになっているんだなあと思いました。その時に「上手上手」といって、一つ一つを大事にしていけたらと思いました。

(宮地委員長)

有難うございました。

(竹内委員)

今までは主に保育では10の姿でしたが、3つの資質・能力があって、それをわかりやすく示すのに10の姿で示していたのですが、(最近)は10の姿が一人歩きして、3つの資質・能力のところがなかなか捉え切れていない、資質・能力の育ちを(園の外に)伝えきれていないところが、文科省でも問題になっていて、附属幼稚園でも今、指定研究として取り組んでいるところです。3つの資質・能力は、保育園、小学校、中学校と続けて培っていく力です。(子どもの中では)続いていくものを保育の中で、見て(捉えて)育てていくにはどうすればいいか、という課題に取り組んでいるところで、流れが昨年あたりから変わってきておりますので、その点も、いろいろ考えつつやっているといいと思います。例えば3つの資質・能力の中で非認知能力というと、「学びに向かう力・人間性」というところになりますが、そういった視点

も押さえながらやっていく事も大切かと思えます。

(宮地委員長)

有難うございます。非常に大切なところだと思います。

私も元教員ですが、固定観念があります。今、益々子どもの姿は変わっていき、もう少し、フレキシブルに対応していく、大人の方がもっと柔軟性をもって対応していくべき時期にきていると思います。子どもは、更に変わっています。大人の頭がそれに追いついていないというのが、現実だと思います。先生からお話がありましたように、例えば15歳の子どもの姿を鏡野中で見て貰いましたが、それを見て今どうすべきかという事を、もう1回考えるべき時に来ているのではないかと思います。今回はまとめをして、来年度へ繋げていけたらと思います。

保護者の方からお願いします。親の立場から見て子どもの成長をお話いただけたらと思います。

(近藤委員)

上の子が年少ですが、今までは同じクラスの友達のお兄ちゃん、お姉ちゃんとはしか遊ばない、少しでも知り合いとはしか遊ばないというか、そういう話しか聞かなかったのですが、最近、私が知らないお兄ちゃんと遊んでもらったとか、その子に教えて貰ったかどうか分からないですが、妹に「こうやってやるがで」とか、急にお兄ちゃんぶりだしました。前までは、兄妹が近寄ったらすぐに喧嘩していました。保育のお陰であると思います。

(宮地委員長)

有難うございました。社会性が出てきた例のようです。素晴らしいです。

私ばかりの話で恐縮ですが、孫がアンパンマンが好きで、ホワイトボードにアンパンマンを書いたところ、妹は顔だけ、姉は全身を書きました。これが、発達段階の違いだと思います。私はその2つの絵を見て、学ばさせていただきました。子どもの成長はすごいと感じました。1歳、2歳でそのような差がでてきます。子どもは素晴らしいと思いました。

他に何かございませんでしょうか。

それでは、まとめをさせていただけたらと思いますが、非認知能力、特に幼児教育では大事だと、そういった事を踏まえて、日頃の保育の中を、子どもの実態や、地域の実態に即して、柔軟な保育をする必要があるだろうと、また、その過程の中で、小学校との接続をしっかりとしていく必要があるので、保育園の方のアプローチカリキュラム、小学校のスタートカリキュラムはすでにできておりますので、小学校の先生と協力しながら、そういった接続のためのアプローチカリキュラムを作る必要があるという事でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。これをもとに次年度へ向け引き続き、考えていくという事でよろしいでしょうか。また、これをもとに、次年度へ繋いでいくという事でよろしいでしょうか。

(信崎委員)

園長先生方は参加をされたと思いますが、先般、高知市で、接続期カリキュラムのシンポジウムがございました。その時にお互いのカリキュラムを、1年ずつ、2年間を見通して、共に作っていくという事を考えましよう、文科省の事業を受けて、県の方の取り組みとしては、春野で小学校と保育園が一緒に作っている事例が紹介されました。お互いが作ったものをお互いが持ってきて繋ぐのではなく、校区の子どもの課題、成長をお互いに考えながら、どういう子どもに育てたいかを考え、共に一緒につくる2年間、そしてまたやりながら、イノベーションして改善していくという取り組みにしていましようという事になったと思います。これまでは、アプローチ、スタートと別々に作っていたものを、そうではない作り方でやっていましようという事なので、お忙しいとは思いますが、単なる連携ではなく、子どもの育ちがきちんと繋がるカリキュラムと一緒に作り上げる2年間を想定して、お互いに行き来しながら、子どもの成長をみて、お互いに評価もしあっていくという動きが、これから香美市でもスタートしていくようになると思います。本年度は前段として、3歳、4歳、5歳をみて、示されているべき姿に近づけていくような重点をどのようにかけるかを、主任さんや園長先生に入っていて、今、検討をしようとしはじめているところであり、来年度以降、それを更にブラッシュアップして、香美市版のお互いの共通的なものの手掛かりになるものを作っていく、さらに保育内容についても検討される予定という認識でよろしいでしょうか。

(小松班長)

はい。そのとおりです。

(信崎委員)

それをもとにして日常の保育をどのように計画していくのか、この活動には週案・日案をもとにして、どの活動に力を入れていくのか、書き切っていく、保育内容で実践しながら、それをエピソード的にお互いが寄せ合って、この今の中でどんな力がついたのかなあという事を地道にやってくる、こういった取組をスタートさせたいのが、来年であると私は思っていますが、よろしくお願いします。

(小松班長)

今、ちょうど、吉田豊香先生をお招きして、研修で5領域53項目を、3歳、4歳、5歳の中で、どれを比較的重点をおいて取り組んでいくかを、みんなで一緒に考えるというところです。また、今度2月においでいただいて、先生からご指導をいただいてやっていこうというところです。

先日の春野の例をみながら、園長先生方に考えていただいて、仮に園でやってみるとどうなるかとアプローチカリキュラムを作ってもらったりしているところです。これから練り上げていって、全体的に統一して、この年齢ではこいいうところを重点的に取り組んでいこうと、それをもとに日頃の保育園でやっていこうというところを考

えている、徐々に進めているところです。

(宮地委員長)

信崎委員、有難うございました。本年度のまとめという事で、さきほどお話ししましたような事として、そして次年度、改めまして、さらに議論を突っ込んでいく形をとるという事で、委員の皆様方、いかがでしょうか。

(異議なし)

(宮地委員長)

有難うございます。ただ、1つ、保育園として気になる場所があり、たとえば、なかよし保育園やあけぼの保育園は非常に大きな園ですが、1つの学校へ行く訳ではありません。それがありますので、1つの課題ではないですが、アプローチカリキュラムを作るときは、当然小学校の校区の話合いになると思いますが、それが、どの小学校へ行っても、小学校で教える事は同じですから、あまりそういった事は気にする必要はないと思っています。そういうなかで、一つのまとめとして、小学校と保育園が一緒になって作っていく、また、幼稚園はすでに作っているとおっしゃっていましたが、さらに、幼稚園も小学校と一緒に作っていくような事が必要であると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それでは、そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。

まとめとして、このようにさせていただきたいと思います。

それでは、次に保育園の保護者会の連合会の要望について、事務局からご説明をお願いします。

(小松班長)

事前に回答欄のところに記載のあるものお配りさせていただいておりましたが、この回答は、途中の回答でしたので、回収をさせていただきたいと思います。今日、この回答欄に記載のない、空白のものをお配りさせていただいております。

保護者会の連合会から保育行政への要望について、簡単にご説明をさせていただきますと、毎年、保護者会の連合会から、保育園の運営について、保護者の方からのご意見をまとめていただいて、市の方へ要望書としていただいております。この中から施設整備を除いたもの、運営に関するものを、本日お手元の資料にまとめて、お配りをさせていただきます。

この資料で、日頃の保育園の運営についての保護者からのニーズを、見ていただけたらという事で、本日お配りをさせていただきました。多岐にわたって内容もたくさんありますので、これについて皆様方からのご意見を本日集約する事は難しいと思いますので、これを来年度の1回目の保育園の運営委員会までに、ご覧いただいて、今、保護者の方から現状としてこういう要望やニーズがあるのか、という事を知っていた



だき、次回の会議で、ご意見をいただけたらと思います。本日はお配りさせていただいたという事で、ご理解をいただけたらと思います。

(宮地委員長)

年度改めて次回ご意見をいただく事になりますか。

(小松班長)

はい。なお、この回答については、今年度、市としての回答を保護者会連合会へお答えする事になりますが、来年度も要望をいただく事になります。この資料で、現状としてどういうニーズや要望があるのかという事を、見て頂けたらと思います。

(宮地委員長)

この委員会でこの空白を埋めるという事ではないという事でよろしいでしょうか。

(小松班長)

はい。こういうニーズがあって、こういう点はどうだろうかというところを、皆様方にご意見を頂くという事で、お配りをさせていただいたところです。

(宮地委員長)

これは年に1回要望書をいただいているという事でしょうか。

(小松班長)

そうです。

(宮地委員長)

保育園の先生方はこの要望内容を知っているという事でしょうか。

(小松班長)

はい。

(宮地委員長)

これは、保育内容にかかわるところだけですか。

(小松班長)

はい。施設整備に関するものは外させていただいています。

(宮地委員長)

保護者からの切実な要望とかもありますので、行政として真摯に考えていく必要があるのではないかと思います。

是非、委員の皆様方のお知恵もいただきたいと思います。委員の皆様方のご意見も反映できるところは反映していきたいと思いますが、その点はいかがでしょう。

(小松班長)

はい。

(宮地委員長)

これからは、保育園だけでなく、保護者も、地域の人と一緒にあって、子ども達を育てていくという観点が必要でございますので、是非ともご協力をよろしくお願いいたします。

他に、今日、議論をしておきたいものがありましたら、お願いします。

(中島委員)

この資料のなかにある担当のところの、幼保、保育園とあるのは何でしょうか。

(小松班長)

説明不足ですみません。幼保とあるのは、全体的なもので回答の起案を主に幼保支援班が行う役割分担という意味です。

(宮地委員長)

委員会の皆様は、幼稚園の先生や、小学校の先生、大学の先生等、多岐に亘ってメンバーとして入っていただいておりますので、是非、自由闊達なご意見を頂けたらと思います。

他に何かありますでしょうか。

(中島委員)

土曜保育をしていますが、毎週1人しかいない状況です。公立の保育園ではどのような状況でしょうか。第二土佐山田幼稚園も5人ぐらいしか来ていない状況です。そこに差があるのではと思いますが、いかがでしょうか。

(宮地委員長)

いかがでしょうか。

(原委員)

なかよし保育園は、乳児はお昼までで、乳児は20人弱ぐらい、幼児は30人ぐらいです。

(宮地委員長)

あけぼの保育園はいかがでしょうか。

(笹岡委員)

幼児は50人、乳児は30人ぐらいです。

(宮地委員長)

以前、前の園長先生が、土曜日は大変ですとお話されていまして。人数が多く、また、時間も厳守が難しい保護者もいるお話もありました。

(中島委員)

有難うございました。

(森田委員)

これから保育園との連携で、活動の中身とか目標とかを協議したり、そういう機会が増えてくるとと思いますが、例えば大宮小学校の場合、担任と、保育園の先生とで、メールでのやりとりは可能でしょうか。

(小松班長)

園と、デスクネットでやりとりができます。また、メールもできます。

(森田委員)

今後、そういう事も必要になってくるのでは思いました。有難うございました。

(宮地委員長)

土佐山田幼稚園さんは認定こども園になりましたが、認定こども園になって、何か変わったというようなところがありますでしょうか。

(中島委員)

土曜日の保育も必ず、職員が2人いないといけないですが、一方、働き方改革で、先生を休ませる必要があります。ローテーションが難しいので、主任も私も入って、全職員でやりくりをしている状況です。その点が、一番難しいところです。保育と教育との部分では、あまり差はないです。

(宮地委員長)

その点については、保育園はかなり複雑だと思いますが、いかがでしょうか。

(公文委員)

ローテーションを組むのが大変です。土曜日出勤したら、平日休まないといけないうえに、来てくれる職員もいない状況です。あけぼの保育園やなかよし保育園の場合、7パターンぐらいあるので、それに職員を入れていく事は大変難しい状況です。産休職員の代わりに職員もいない状況で、美良布保育園も今年2名欠員のまま、ぎりぎりのところでやっている状況です。来てくれる人がいない点は、どの園も同じで、大変な状況です。

(宮地委員長)

ご苦労様でございます。

(信崎委員)

香美市に新しい図書館もできて、市民一体となって文化の拠点として、そういうところを活用しながら生涯学習的に市民みんなが学び合える、学んでいけるというところを確立していく、この就学前の部分で、見直しをすべきところがあるのではと思います。例えば、図書費の枠を確保はされているとの事ですが、子どもたちがいつでも読書に親しめるコーナーが設置できているのかとか、保育園へ行かせて頂いて、現状は大体分かったという事と、大柝保育園は玄関の横にそういうコーナーがあったり、片地保育園もちょっとした、そういったコーナーもあったりと苦労されているとは思いますが、何かそういうところで課題があるのであれば、是非、絵本に興味を持ったりする、様々な気づきや芽生えや、それをもとにした体験との結びつきなど、豊かな想像力を育むとか、情緒的な伸びとかを育む、保育士さんと子ども、子ども同士もそうですし、親と子どもとも、大事にしていきたいねとか、一体となって進んでいけるようなところがうまくできていけばいいのですが、一市民として、気になるところではあります。

(公文委員)

絵本代も限られたもので、1人500円の予算しかなく、絵本代も高くなってきており、年間通して本当に何冊も変えない状況で、去年、あけぼのに勤務していましたが、そういう状況なので、かみーると連携して、2ヶ月に1回100冊ぐらい貸していただいて、それを毎月変えてもらう交流もいたしました。絵本の充実がなかなか難しく、現在、美良布保育園に在籍ですが、図書館から絵本を借りている状況にあります。もう少し予算をつけていただけたらと思います。以前から、要望していますが、なかなか厳しく、図書館と連携してやっていくしかないと思っています。

(宮地委員長)

逆に園から図書館へ子ども達を引率していくというのはどうでしょうか。

(公文委員)

美良布保育園は引率してやっています。

(宮地委員長)

あけぼの保育園はいかがでしょうか。

(笹岡委員)

園長とも話をしましたが、年長であれば、歩いていけると思います。

(宮地委員長)

図書館ができれば、連れていきたいとお話されていたと思いますが、園の中でも大切ですが、まずは、かみーるへ行き、そこで体験をするという事は子どもたちにとって大切な事だと思います。

(竹内委員)

子どもがいけば、親が行った事がなくても、それがきっかけで「行ってみようか」ということになると思います。園だけだと、難しいと思います。

(宮地委員長)

もし、行かれるのであれば、バスを使う必要があるので、予算が必要になると思います。

(小松班長)

来年度は、本代は500円以上がなかなか困難な状況ですが、かみーるへ行くバスは、各園、年に1回は行ける予定で予算を上げられる見込みです。

(竹内委員)

できれば、かみーるへ行った時の様子を写真にとって、保護者の方にみて貰えば、かみーるの良さを知って貰いやすく、次に繋がると思います。

(中島委員)

土佐山田幼稚園は、あけぼの街道から1本道なので、歩いて年長さんは借りにいきます。移動図書とかみーるさんの貸し出しを利用させてもらっています。後援会(保護者会)さんから、年度末に、余裕のあった年は2万円から3万円寄付をいただい

て、新しい新書を買う、園の方からもちよっとお金をもらって買うというような状況です。その中から、親子貸し出し図書、先生がおっしゃったように、ブログにできるだけ、その光景の写真を撮って流す、自分が同じ本を2回かりると、3回目借りるときは教員が「すごく好きだね」と、保護者へ「どうですか一冊」と声掛けをしています。

(宮地委員長)

大切な事ですよ。

(小松班長)

あと、ロータリークラブさんとか、団体さんからまとまった寄付をいただいて、幼稚園さんとか、公立保育園、ひまわり保育園さんとかと、分けあって、買ったりしています。現状はそういう状況です。

(信崎委員)

有難うございます。母親として、子どもとぬくもりを感じながら、本を読みあつたりとかいう時間の大事さももっと、香美市も啓発していく時かなあと、SNSから1週間に1日、2日ちょっと離れて、親子でゆったりしながら、読み聞かせをしながらという環境も大事なあと、思ったりします。私達、子育ても終わって、孫もたくさんいるんですが、年齢も離れて、家庭のどこかに置いてあって、どこかに寄贈したいなあと思っている方もおいでるようなので、ポス特的なものが、市のどこかにあって、市民から頂いた比較的、お子様が手にとっても、大丈夫そうな、破損はしていないけれども、見ていただいて、保育所にもお好きなのをとって帰っていただくとか、そういう工夫もどこかに、図書館なのか、市役所なのか、色んなところに置くのかわかりませんが、そういうコーナーもあっても、SDGsではないですが、捨てられるよりはいいのかなあと、話されている保護者もいます。ありがとうございました。

(宮地委員長)

図書館の活用は是非お願いしたいと思います。図書館をつくる時に、駐車場で、そういったマーケットをやったらどうですかと、本も持ち寄って、そんな話もありました。

(竹内委員)

大学もいらなくなった本を、ものすごく廉価で販売するのもやっていますし、学生とか、近所の住民の方のいらなくなった本を持ってきてもらって、古本屋に売って新しい本を買うというのをやっています。予算を確保するためにやっています。

(宮地委員長)

そういったイベントをこれからどんどんやっていく事も必要だと思っています。

また、図書館の件については、お話をしていきたいと思っていますけれども、是非、子どもたちに図書館を利用していただきたいと思っています。

他にございませんか。

(竹内委員)

香美市は美術館もとてもよい取組をやっているなあと普段から感心していて、例えば高知県立美術館とかだと、子ども（や小さい子連れの保護者）が入りづらい雰囲気がありますが、香美市の美術館は子どものためのイベントとかもやっているの、子ども連れでお母さん方も来やすいと思います。その辺を、もっとアピールすればいいのにと考えております。

(宮地委員)

香美市の図書館は、津野の図書館、梶原の図書館に負けないようになりましてか  
らと言っていました。是非、活用をお願いいたします。

それでは、本日はこれで終わりたいと思います。

次回の事について、事務局より説明をお願いします。

(小松班長)

今回は、来年度になりますので、新年度に準備ができましたら、日程調整をさせていただきます  
とお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(宮地委員長)

今日の資料を次の会の際にお持ちいただいて、ご意見を賜りたいと思います。よろし  
くお願いします。

それでは、これで、第3回香美市保育園運営委員会を閉会させていただきます。

どうも、有難うございました。

14時20分終了